

株式会社あわや

トップに聞いてみよう
vol.4

トップに聞いてみよう



▲B型事業所の作業風景

感しました。おられた皆さんが、おもしろいもの多いで、「氣づいた」と、大きめに前進してきたと思っていまます」と都築社長。生活支援員の上杉さんも「個人を尊重し、寄り添つ気持ちで職員間にも広がっています。居心地が良く、やりがいのある職場です」と言葉を添えます。

未来を拓く

人間尊重の精神は、あわやの障がい者雇用にも生かされています。支援学校出身



▲NPO法人福和会 施設長 都築伸宜さん
生活支援員 上杉由希子さん

もちろん、障がい者雇用のメリットは、ただではありません。簡単にいうと、会社がいい方向へ変わらなければいけない。例えば、「この道具」が使いにくく、その説明が分かりにくいなど、障がい者が困っていることは、多くの場合、健常者のためも困っていることです。障がい者のためにではなく、障がい者をさしつかでに、会社のルールや仕組みを整える」とが、「さるんです」と都築社長、B型事業所の施設長である弟の都築伸宜さんも、障がい者の持つ可能性を知っているからこそ、「先入観に囚われることなく、多角的な視点を持つてほしい」と話します。



▲B型事業所の利用者。表情から充実感が伝わってきます。

Voice (

倉野 聖保さん 入社6年 株式会社あわや所属

支援学校の頃に、「あわやは福祉用具を扱っている」という話を聞き、技術を身につけたら将来、親の介護に生かせるのではないかと考え、入社を決めました。今は返却された後の福祉用具の洗浄、消毒、メンテナンスなどを行っています。高齢化が進む中、この仕事に携わっていることを誇りに思っています。利用者さんの顔を見ることはできませんが、誰かの役に立正在りと感じること、それがやりがいです。親だけではなく、福祉用具を必要とする多くの高齢者を支えられるよう、これからも頑張っていきたいです。



10 大分県障がい者雇用促進ジャーナル「ともに働く」

中小企業家同友会で学んだ
人間尊重の大切さを実感

10名ほどでスタートしたB型事業所は現在、精神、知的、身体に障がいを持つ50名が通所、豊富な選択肢の中から適性に合わせた作業を選び、生き生きと働いています。「B型事業所の運営、支援

中小企業家同友会で学んだ
人間尊重の大切さを実感

グループ運営

株式会社あわや

- 介護ショップあわや
福祉用具のレンタル・
●ノーリフティングケアLAB
ノーリフティングケアの普及

NPO法人 福和会

- #### ●多機能型事業所じゃんびんぐVOY

**業務を追して深くなった
障がい者への想い**

A photograph of a modern, spacious room designed for elderly care. The room features a large wooden dining table with several chairs. On the wall behind the table is a whiteboard with the words "Colorful Kitchen" written on it. Above the table, there is a suspended ceiling track system with a camera or sensor unit attached. In the background, there is a bookshelf filled with books and other items, and a staircase with a wooden railing. The overall design is clean and modern, with a focus on functionality and accessibility.

九州で唯一、世界シェアNo.1の介護支援機器メーカー「アルジ」の代理店に認定されるなど、業界でも大きな注目を集めています。

「私たちが力を入れているノーリフティングケアは体を動かすことができる重複障がい者の移乗に使われる」とあります。障がいのあるお子さんを懸命に介助する親御さんを見るうちに、「もっと力になりたい、助けになりたい」という想いが膨らんでいました。そう話すのは都築社長。中小企業家同友会での学びもその想いを後押ししたといいます。経営に一番大切なのは人間尊重、人間尊厳のゴー

後大野市の就労継続支援B型事業所（以下B型事業所）から運営を引き継いでほしい”という連絡をもらったことをきっかけに、本格的に障がい者福祉の道へと進むことになった都築社長。「2016年に社長就任、2017年にB型事業所の運営に着手、2018年にあわやで初めて障がい者雇用、2020年にB型事業所を独立させNPO法人福和会設立と、目まぐるしく5年間でした」と振り返ります。

員や利用者とのふれあいを通じて、たくさんの学びがありました。例えば、「うちの支援員は「音」添つ支援」をテーマに掲げ、利用者全員に敬意を持つて接している。意志疎通が難しい重度の人に対するときもそれは変わりません。障がい者だからではなく、一人の人間として向き合い、寄り添い、見守る。頑張つてくれてありがと」と声を掛ける。「すると、不思議なことに利用者の状態がどんどんよくなるんです。笑顔が増え、挨拶できるようになります。つきっきりの互助が必要になります」。個人を尊重することがその成長、秘められた可能性の開花、ひいては企業の成長につながるものだと実感

大分県障がい者雇用促進ジャーナル「ともに働く」



代表取締役社長 都築 克宜 さん